

台風十九号を中心に前後の台風が大暴れ、各地で河川が反乱し、家屋が浸水、多くの方々が被災されました。平家物語の「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり」の文言が浮かびます。前もつての注意喚起情報がありました。時として自然の力は想像を超えてしまい、そして、多くの方々の命が奪われてしまったのです。昔から「何人たりとも命の尽きるのを知らず」。法然上人は「誠に受けがたき人身を受けながら、むなしゅう三途にかえり給わん事、悲しんでも尚あまりあり・・・末法濁乱の機には稱名をもつて勝れたりとす」と申されました。現在は誠に多忙の危機です。一番簡単な念仏（南無阿弥陀仏）を称える事によって、「いけば念仏の功つもり、しなば浄土へまいりなん」と当に此の身を念仏で包むことに因って、身の安全が守護され、万一の時には極楽に導いて頂けると言う。法然上人様のお言葉を胸に刻み生活の中に念仏を取り入れましょう。まだまだ台風がもたらした災害の後片づけで大変なご苦労をされて見えます被災地の方々仏教で「大慈悲心」という言葉があります。大慈悲心とは全ての人々に対して、温かい心を持って接し、共に生きていく所作をすることです。被災地では沢山のボランティアの方々が手を差し伸べて見えます。当に佛の姿です。「心暗きときは、即ち遭う所悉く禍なり。眼明らかなるときは、則ち途に触れて皆宝なり」、心が塞ぐのは当然ですが、ボランティアの手助けで少しでも心が穏やかになれば元気が頂けるのでは無かるうか。天皇后両陛下も心を傷められ、パレードを延期されました、新天皇后両陛下のパレードは十日に挙行されます。

今年もノーベル賞が決まりました。日本国では化学賞にリチウムイオン電池を発明実用化された「吉野 彰」教授が選ばれました。何十年もコツコツと研究された結果が実を結び誠に喜ばしいことです。モノリザで有名なレオナルド・ダビンチは飽くなき好奇心から「それはどうしてなのか・どうすればいいか・やってみれば何でもできる」との探究心から、突き進んだ人です。当に、ノーベル賞を頂く人は此のような人生を歩まれてきた方々ではなかるうか。

浄土門では「観念の念」にもあらず。学問をして「念の心を悟りて、申す念仏にもあらず」。唯、「往生極楽の為には南無阿弥陀仏と・・・申す他には別の子細候はず」と又、佛の本願に乗じて阿弥陀佛國に上品往生したならば、・・・六神通を得て、十方界に入つて苦の衆生を救攝せん。「観念」とは心に佛を思い浮かべ、一種の瞑想に入ることだと思えます。浄土門以外では「念の心を修練すること、悟りを得る事ができるとするもあります。念仏というも佛様にはお薬師様・観音様・地藏様・不動様等々色々な佛様が見えます。ですから、ここでは極楽の主「阿弥陀様」を指し、南無阿弥陀仏と称えなさいと、言ってみえるわけです。ここで解るように南無阿弥陀仏と称える目的は生きている間は息災に、死んでからは極楽に往くことです。そして神通力を授かり、娑婆の苦界を救ってほしいと、法然上人の希望であり、後々の浄土門に帰依する大衆に向けて一文を書かれたと思えます。水子の靈魂は不慮の事故により殺害された方々と同じ重さの魂を持って見えます。水子は忘れ去られがちですが懺悔の気持ちを忘れずに供養して頂きたいものです。命を軽んずる事は禁物です。